

神奈川大学人文学研究所編
日高昭二責任編集

表象としての日本

移動と越境の文化学

神奈川大学人文学研究所 出版される論文集は昨今枚
半は、同大学外国語学部国
際文化交流学科に属してい

る。職場の業績作りとして
編になる本書の執筆者の大
学に暇ない。だが本書は例
外的に高い志に貫かれ、個
性豊かで高水準の論考が、
執筆者個人の自由は尊重し
つつ、対象分野の鳥瞰的布
置を描くのに成功してい
る。

試みが新鮮な成果を生ん
だひとつの理由は、日本を
専門領域とする研究者が、
その延長上で、日本に外か
ら注がれた視線と、そこに
現れた「表象」を吟味した
からだろう。鈴木彰氏は平
家物語専攻の立場からラフ
カディオ・ハーンの「平家
蟹」を読み直し、ハーンを
別格に捉えるのではなく、
逆に日清・日露戦役の時代
相のなかにハーンの「エッ
セイ」を装った短文の意図
を想定する。編者の日高昭
二氏は忠臣蔵への蘊蓄を基
礎に、ミットフォードやフ
レデリック・ティッキンス
の Chushingura 読解
を腑分けする。欧米側が滝
善次郎の切腹に衝撃を受け
たなら、坪内士行や与謝野
寛らは欧州で珍妙な「ハラ
キリ」翻案物に接した。『仮
名手本忠臣蔵』の逆輸入
品、メソフィールド『忠
義』には、菊池寛や三田村
鳶魚の劇評が知られるが、
詩人の野口米次郎は、アイ
ランド人たる著者には忠
だった表裏に迫る。これに
つづき山口ヨシ子氏が『三
・ノグチの「朝顔鑑」を分
析する。同時代の北米文学
における有色人種表象のな
か、ノグチが実名を隠し

高水準の論考を揃える

対象分野の鳥瞰的布置を描くのに成功

稲賀 繁 美

違和感は、逆に外の価値観
を理解するための試金石と
もなる。復本一郎氏は、陸
羯南の『日本』創刊号を正
岡子規との関係から吟味す
る。陸は吉野作造や竹内好
とともに、現在中国大陸で
思想史的研究対象として
「合格」をもちえる、数少
ない近代日本の（非マルク
ス主義系）思想家。
日本女性の表象にも、充
実した論考が続く。まず鳥
名乗った平安朝の「博士」
座の旅日記を精読する。日
付の混乱という避けがたい
事態を「日曜日」の発見で
克服する。八八の行状に、頭
でっかちなボスコロ理論な
どとは無縁なまま、未知の
世界に接して縦横に發揮さ
れた、実利の英知と旺盛な
好奇心の発揚を探る好論で
あり、『米欧回覽実記』ほ
かとは一味違った知性に密
着する、論者の感性と船晦
ぶりも愉快。

「女装」の語り手を設定
した戦術や、朝顔鑑が盗み
見した叔父の日記を借りて
北米批判に及ぶ山口の陰
に、イサム未婚の母とな
るレオニー・ギルモアの演
出が関与した可能性を示唆
する。これにつづき、60年
代高度成長期の日本を見た
アンジェラ・カーターの場
合が、村井まや子氏によっ
て検討される。東洋の神秘
に魅了されていた彼女は、
実は東洋の男性たちの欲望
に晒される対象であったほ
かりか、自分が女性カー
トンに他ならなかったとま
で、日本人男性の恋人から
図星を指される。この作家
が体験した鏡面の屈曲から
は、他者性の本質を突き止
めることの無謀さが露呈す
る。視線に応じて無際限に
変容する他者に、そもそも
固定した本質など日本では
ない。同時期に日本の文
楽を見たロラン・バルトは
繰り系のない人形に、絶対
神なき世界の「意味の廃絶」
を見たが、カーターはその
日本で、「裸の主体なき自
己」に直面した。
こうした言語空間の越境
性の具体的検討の背後に
は、その舞台を提供する歴
史の場の生成が検討され
る。日本古代史を専攻する
前田禎彦氏は、古代日本に
おける異国・異域表象の語
彙表記から、逆に日本の自
意識を表し出す。唐から見
て日の出の方向にあるから
、自らを「日出る国」と
名乗った平安朝の「博士」
座の旅日記を精読する。日
付の混乱という避けがたい
事態を「日曜日」の発見で
克服する。八八の行状に、頭
でっかちなボスコロ理論な
どとは無縁なまま、未知の
世界に接して縦横に發揮さ
れた、実利の英知と旺盛な
好奇心の発揚を探る好論で
あり、『米欧回覽実記』ほ
かとは一味違った知性に密
着する、論者の感性と船晦
ぶりも愉快。



A5判・330頁・5880円
御茶の水書房
978-4-275-00818-3

★ひだか・しよじ氏は
神奈川大学教授・日本近
代文学専攻。早大大学院
修士課程修了。著書に「菊
池寛を讀む」など。一九
四五（昭和20）年生。